## アーカイブスあらかると Vol.137(2023.11.20)

## 津波が来ると心得よ

先人は歴史や自らの経験から、大地震の後には津波が来ると心得よと、後世の人々に伝えています。そのことは、安政南海地震の後に建立された石碑にも記されています。徳島県海陽町と高知県高知市の碑をご紹介します。

## ■鞆浦の海嘯碑(徳島県海陽町)

安政元年(1854) 11 月 4 日巳の刻(午前 10 時)頃、天地俄に震動し、海潮が狂い港口へ満込む音が烈しくなったため、人々は驚き騒ぎましたが程なく治まりました。翌 5 日申の刻(午後 4 時)頃、大いにゆれ出し、ものすごい音が響き、海面が膨れ高潮が来襲しました。人々はあわてふためき、とるものもとりあえず、最寄りの山に逃げ登りました。鞆浦では潮は多善寺の門前まで、海部川沿いでは脇の宮まで達し、津波の高さは 1 丈 2 尺(3.6m)となりましたが、一人の怪我人も出ませんでした。安政 2 年に建立された鞆浦の海嘯碑には、大地震の後には津波が来るので、迅速に逃避して命を守ることが大事という趣旨のことが記されています。<鞆浦の海嘯碑の碑文、猪井達雄・澤田健吉・村上仁士著「徳島の地震津波一歴史資料からー」1982年など>







## ■浦戸の稲荷神社の石柱碑(高知県高知市)

安政元年(1854) 11 月 4 日辰の下刻(午前 9 時)頃小震あり、その後潮に変化が起こり、八ッ時(午後 2 時)までの間に 3 回の干満がありました。翌 5 日 7 ッ過ぎ(午後 4 時頃)に未曾有の大地震が起こり、家屋の倒壊はさながら将棋を倒すが如くでした。ちょうど夕方の炊事の時でたちまち火災が各所で起き、その光景は凄惨を極めました。少しして海嘯が浦戸口から押し込み、下知堤を決して下町に侵入しました。高知市内の被害は、流家 1,676 戸、潰家 568 戸、死者 106 人に及びました。浦戸稲荷神社には、倒壊した鳥居を譲り受けた大黒屋嘉七良が警告文を彫り込んだ石柱碑があります。そこには「後世人大地しん有時津浪入と心得へし」と刻まれています。<高知市編「高知市史」1973 年、浦戸稲荷神社の石柱碑など>





